

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり

「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」平成30年8月21日発行（特別号）

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善を

平成30年7月31日(火)、全国学力・学習状況調査の調査結果が公表されました。本調査の趣旨は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、確かな学力の定着や学習状況の改善に役立てることです。

各学校では、児童生徒一人一人の学習状況の把握・分析が進められていることと思います。自校の課題を明らかにして、全職員で共通理解を図り、9月からの具体的な授業改善を推進しましょう。

授業改善の検証と学習内容の定着に向けた取組



1 計画的に取り組みたいこと

- 児童生徒の予想されるつまずきを踏まえた課題の設定や発問をするなどの授業を展開する。
- 単元全体を通して目指す児童生徒の姿を明確にし、学習課題や評価、交流場面の設定などを見直す。また、その見直しに基づいた授業を展開する。
- 全国学力・学習状況調査で課題の見られた問題に再度取り組み、児童生徒自身が「何につまづいているのか」に気付くような個に応じた指導を行うとともに、そのつまずきを解消できるような指導や学習形態の工夫・改善を図る。

2 「学力アップ問題Ⅰ～Ⅷ」の活用

「学力アップ問題」は、過去の全国学力・学習状況調査の分析結果から、児童生徒のつまずきを踏まえ、出題のねらいや問題の形式（問われ方）等、全国学力・学習状況調査と関連付けて作成したものです。宿題等で取り組むだけでなく、授業の中での計画的な活用をお願いします。

〈ダウンロード先〉 教育情報ネットワーク → 文書通知 → 義務教育課
→ 「学力アップ問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ」

誤答から見えてくるつまずきを踏まえた授業改善例

【理科】

【蒸散を科学的に探究する】 平成30年度 中学校理科 ⑨ (2)

実験ノートの一部

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

課題 密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置くと、湿度は上がるのだろうか。

【実験】

容器の中の温度と湿度を測定する器具

A 植物あり B 植物なし

【結果】

AとBの容器の中の温度は22℃で変わらなかった。

時間(時間)	0	1	2	3	4
湿度(%)					
A 植物あり	37	67	87	88	88
B 植物なし	38	39	39	38	38

【考察】

実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がるといえる。

【新たな疑問】

水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。 [全国正答率：19.4%]

【主な誤答】

- ・ **箱の中の水蒸気の量が増えた。** [全国反応率：9.4%]
- ・ **温度が上がった、または湿度が上がった。** [全国反応率：6.1%]
- ・ **植物から水蒸気が出た、温度が変わらない等**

【考えられる生徒のつまずき】

・ この問題は、植物ありと植物なしを比較した実験であるが、植物なしの方に土の入った鉢がないため対照実験になっていない。それを生徒に気付かせ植物の有無以外の要因があることを考えさせる問題であった。しかし、ほとんどの生徒はそのことに気付かず、蒸散以外に植物から水が出る原因を考えてしまっている（植物が呼吸するとき水分が出ると誤った理解をしているため）。

【学習指導に当たって】

- ・ 対照実験の条件設定においては、調べたい条件(独立変数)は「課題に正対していること」、「調べたい条件以外は全て同じ条件にすること」について授業の中で考えたり、確認したりする場面を設定することが大切である。また、「変える条件」と「変えない条件」とを整理して実験を計画する学習場面を設定することも重要である。

